

低気圧と暴風雨雪に係るワークショップ2022
と

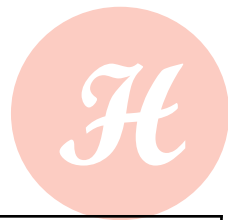
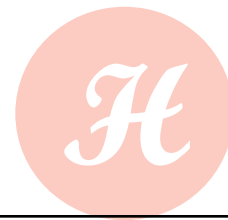
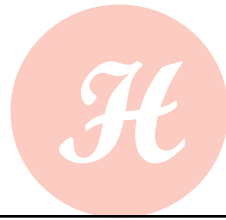
第4回高低気圧ワークショップ
との合同ワークショップ



会場：防災科学技術研究所 東京会議室

会期：2022年8月29日（月）～30日（火）

8/29 (月)のプログラム



12:30-12:40	はじめに		
12:40-13:00	辻 泰成	富山大学	日本海海上における冬季雷発生時の降水粒子特性
13:00-13:20	竹見 哲也	京都大学防災研究所	豪雨発生時の大気環境条件
13:20-13:40	二宮 秀	富山大学	日本海海洋上の地上観測から得られたJPCZの内部構造について
13:40-14:00	山本 勝	九州大学応用力学研究所	海面水温偏差が2020年7月下旬の対馬海峡の大雨に及ぼす影響について
14:00-14:20	藤原 圭太	京都大学防災研究所	九州地方における梅雨の準4年変動の顕在化
14:20-14:40	安永 数明	富山大学	九州南部における梅雨期の降水の増加傾向
14:40-15:00	休憩		
15:00-15:20	山本 晃立	東京大学大気海洋研究所	渦間相互作用に着目した寒冷渦の維持過程：2021年7月の欧州における事例
15:20-15:40	春日 悟	三重大学	日本周辺へ到来する寒冷渦の移動経路
15:40-16:00	柳瀬 亘	気象研究所	IWTC-10における温帯低気圧化・熱帯低気圧化の作業部会について
16:00-16:20	辻野 智紀	気象研究所	2019年台風 Hagibis における温帯低気圧化の数値シミュレーション
16:20-16:40	休憩		
16:40-17:00	嶋田 宇大	気象研究所	台風の面的暴風分布推定に向けて
17:00-17:20	富田 裕之	北海道大学	衛星観測に基づく台風時の海面潜熱フラックス
17:20-17:40	金田 幸恵	名古屋大学ISEE	20世紀半ばには21世紀初めより日本に強い台風が来てもおかしくない？
17:40-18:00	那須野 智江	海洋研究開発機構	2018年の台風活動に対する海面水温偏差の影響

8/30 (火)のプログラム



09:00-09:20	渡邊 俊一	気象研究所	d4PDFを利用したポーラーメソサイクロンの将来変化
09:20-09:40	川野 哲也	九州大学	MIROC6 SSP5-8.5シナリオに基づくJPCZの将来変化
09:40-10:00	山崎 哲	JAMSTEC	JPCZとブロッキング高気圧についての研究
10:00-10:20	望月 崇	九州大学	冬季日本における極端降水量ポテンシャルの複数年予測の試み
10:20-10:40	休憩		
10:40-11:00	岡島 悟	東京大学 先端科学技術研究センター	北太平洋冬季の移動性高低気圧頻度の季節性 ：「真冬の振幅低下」との関連
11:00-11:20	栃本 英伍	気象研究所	スプリット前線を伴う温帯低気圧の構造
11:20-11:40	平田 英隆	立正大学データサイエンス学部	2020年3月に八戸で発生した暴風の発生プロセス
11:40-12:00	議論と終わりに		

